令和４年度　登米市立登米中学校　自己評価及び学校関係者評価

本年度の重点努力事項	自己評価	成果と課題及び次年度に向けた対応方針（⇒）	学校関係者による評価(自己評価の適切性及び所見)
○　学校教育目標 校訓「進取」「公明」「強健」 〈学校教育目標〉 「とよまに誇りを持ち，人を思いやり，未来を拓くたくましい生徒の育成」	B	○ 学校教育目標の理解（保護者アンケートより） ・**８４．８%**が理解していると回答（昨年度より**０．９%増**） **⇒昨年度と比較し，若干ではあるが増加した。年度初めの学校だよりや学年 PTA 懇談会，HP 等，様々な機会や方法を用いて生徒・保護者に伝える努力を続ける。** ○「学校は，保護者や地域の期待や思いを受け止め，それに応えようと努力している。」（保護者アンケートより） ・**８２．３%**が良く努力していると回答（昨年度より**２．７%増**） **⇒三者面談や学年 PTA 懇談会，保護者アンケート，学校運営協議会などで，保護者や地域の思いや願いを聞き取る機会を持ち，教育活動に反映していくよう努める。**	**学校関係者による評価：（B）** ・コロナで思うように交流できない。学校からの様々な方法での発信は，保護者にとってありがたい。 ・学校と家庭が密に連携していることが伝わってくる。地域からの要望についても，柔軟に対応してもらっている。 ・学校とＰＴＡの連携は図られているが，一部協力的でない方も見受けられる。 ・８割以上の保護者の方が理解していることから，学校の日々の努力がうかがえる。　（保護者平均８３．６%）
１主体的に学ぶ意欲・態度の育成と「確かな学力」の向上 ①校内研究を核として授業改善に努め，ICT 機器の積極的な活用等を通して，主体的に学ぶ生徒の育成を図り，生徒一人一人が“分かる喜びが実感できる授業づくり”を推進する。 ②授業づくりの基礎・基本(学習課題，発問，板書等の工夫等)を大切にすることで授業力を高め，学習内容の確実な定着に努める。 ③学力向上の基盤は学級づくりにあるという共通認識に立ち，受容的・共感的な雰囲気の学級づくりに努めるとともに，家庭と連携して家庭学習の習慣化に努める。 ④各種学力・学習状況調査や市標準学力調査，校内研究アンケート結果を分析・検証し，その成果と課題をもとに具体的な対策を講じて，確かな学力の向上を目指す。	C	①②「自分の子どもは授業内容を理解している。」（保護者アンケートより） ・**５０．６%**が理解していると回答（昨年度より**１．０%減**） ・１２月実施の生徒アンケートでは,「授業が分かる」と回答した生徒の割合は**９２．９%**であった。 **⇒生徒アンケート結果から，生徒は授業では「分かった」と感じているが，実際は定着（習得）までには至っていないと考えられる。「分かる授業づくり」と同時に，自分の学習を客観的に振り返り，自分の課題を見いだす力を育成していく。また，授業や家庭学習等でタブレットを活用し，学習内容の定着を図るための方策についても検討していく。** ③「平日１時間以上，家庭で学習している。」（生徒の学習アンケートより） ・５月の結果：**６７．９%**，１２月の結果：**６２．７%（５．２%減少）** 「自分の子どもは，平日，平均１時間以上の家庭学習に取り組んでいる。」（保護者アンケートより） ・**４５．６%**が取り組んでいる回答（昨年度より**２１．１%減**）。 **⇒３年生は学習時間が伸び，学習習慣はついてきているが，１･２年生の学習時間の減少が見られた。来年度は，学ぶ姿勢や学習に対する意欲の向上に着目しながら，職員間の研修を進め，保護者と連携しながら，タブレットの活用なども含めた家庭学習の習慣化を図る方策について検討していく。** ④昨年度の市標準学力調査の平均正答率は，現２・３年生とも社会科のみ登米市・全国を上回ったが，それ以外はすべて下回った。今年度の結果も含め，分析・検証をしっかりと行い，つまずきの原因など実態を把握した上で対策を講じていきたい。	**学校関係者による評価：（C）** ・宿題が終わればその日の勉強は終わりという意識の生徒が多いのかなと思う。予習や復習に取り組む意識付けの対策が求められていると思う。 ・会社の研修と同じで，授業もその後のフォローが大切で，日々の生活の中で繰り返し学習ができる環境づくりが大切だと思う。 ・自分が興味あることは自ら進んで取り組む。生徒たちが少しでも興味を持つような取組をお願いしたい。 ・学習指導法が保護者に評価されているのは良いと思う。 ・学校側の学習内容の定着に向けての対策について，努力している様子が感じられる。 ・家庭学習の大切さを，親と子で一緒に学ぶことができる機会があるとよいと感じた。 ・タブレットの活用など，学習の習慣化が大切だと思う。 （保護者平均４８．１%）
２学校行事や生徒会活動・部活動の推進による豊かな心とたくましい体の育成 ①生徒会活動の活性化を図り，自発的，自治的な生徒会活動を推進するとともに，生徒参画型で感動や達成感のある学校行事を通して豊かな心をはぐくむ。 ②生徒一人一人が所属感を持ち，居心地のよい学年・学級集団づくりに努め，いじめや不登校を生まない学校づくりに努める。また，「特別な教科 道徳」の時間を充実させることで相手を思いやる心等を育むとともに，人との関わりや体験活動等を基に，コミュニケーション能力の育成を図る。 ③部活動の自主的，自発的な取組を促進し，地域と連携してたくましい心身や協調性，責任感，連帯感等の育成に努める。	B	①「登米中生は学校行事を通して成長している。」「生徒の成長を目指して学校行事の持ち方など，工夫改善を図っている。」（保護者アンケートより） ・前問は**９２．４%**が良く成長していると回答（昨年度より**０．１%減**） 後問は**８４．８%**が良く改善していると回答（昨年度より**４．５%減**） **⇒生徒の活動に制限をかけた中でも工夫・改善を図ってきた。今後は，もっと生徒主体で行事を行えるようにすることで，達成感や充実感を高めていきたい。** ②「学校は生命を大切にしようとする心を持ち，自分の生き方を考えるなど豊かな心を持った生徒を育てようとしている。」「学校は生徒一人一人に応じたきめ細かな指導の充実を目指して努力している。」（保護者アンケートより） ・前問は**８７．３%**が良く成長していると回答（昨年度より**０．８%減**） 後問は**８２．３%**が良く改善していると回答（昨年度より**８．１%増**） **⇒職員の情報交換や研修を通して共通理解を図り，生徒一人一人へのきめ細やかな支援を継続することで，いじめや不登校を生まない学校づくりに努めていく。生徒会活動の活性化や道徳の時間の充実を図り，「行きたくなる学校づくり」を推進する。** ③「登米中生は部活動に目標を持って意欲的に取り組んでいる。」「登米中生は部活動を通して成長している。」（保護者アンケートより） ・前問は**８３．５%**が良く取り組んでいると回答（昨年度より**３．６%減**） 後問は**８１．０%**が良く成長していると回答（昨年度より**８．２%減**） **⇒部活動やスポ少での活動，大会等が通常に戻りつつあり，各部活動とも中総体や新人大会等での活躍が見られた。そのような中，生徒数の減少によりチームが組めなくなり合同チームとして大会に参加するなど，モチベーションの維持等に難しい面も見られた。今後の部活動の在り方についても検討していく必要がある。**	**学校関係者による評価：（B）** ・生徒は自分たちなりに行事を通し成長していると思う。 ・以前のような生徒主体の行事ができるようになることを楽しみにしている。学生時代は，このような活動が一番思い出に残るので。 ・多くの行事を，概ね中止することなく実施できたのは素晴らしいと思う。 ・学校に行きづらい生徒をなくすよう，すぐに大人に相談できる環境づくりをお願いしたい。「行きたくなる学校づくり」を推進してほしい。 ・難しい問題ではあるが，不登校等の精神面が未熟な子供の救い上げが不十分のような気がする。 ・部活動は，コロナ禍や生徒数の減少など，モチベーションの維持の難しさがある。部活動の在り方を検討していく必要がある。 ・部活動，スポ少で，他校と合同練習を取り入れるなど，様々な取組をして交流を深めてほしい。今後は，地域や他校との連携をより一層深めていくことが重要であると思う。 （保護者平均８５．２%）

評価の観点　A：十分満足できる，B：おおむね良好である，C：やや不十分であり改善が必要である，D：早急に対策を講じる必要がある

（裏面もご覧ください）

本年度の重点努力事項	自己評価	課題及び次年度に向けた対応方針	学校関係者による評価(自己評価の適切性及び所見)
３小・中・高の連携による志教育の推進と進路指導の充実 ①地域の豊かな教育資源と伝統文化を生かしながら，小・中・高や地域との連携を図り，取組の連続性を考慮しつつ，交流を充実させることで何事にも「目標・夢・志」を持って取り組む生徒を育成する。 ②志教育を各教科・領域の枠を超えて横断的に行うことで，高い意識と意欲を持って，自己実現を図ろうとする生徒を育むとともに，一人一人の希望や特性に応じた進路選択の支援体制の充実を図る。	B	①「登米小，登米高と連携した【志教育】に力を入れて取り組んでいることを知っている。」（保護者アンケートより） **・８１．０%**が良く知っていると回答（昨年度より**１０．０%増**）。 **⇒小中高連絡会において，現在の状況に合わせた連携の在り方について検討しながら取り組んでいる。連携事業の目的や活動の様子についても，HP や学校だより等を活用しながら保護者に伝えていったことにより，理解を深めることができた。** ②志教育については，各教科等の年間指導計画にもその関連について明記し，３年間を見通して計画的に指導に当たった。進路指導については，コロナ対策を講じながら「職場体験」を実施，「キャリアセミナー」も開催することができた。進路相談も二者面談を実施して生徒の気持ちを確認した上で，保護者に寄り添いながら対応した。 **⇒引き続き，志教育の推進を図っていきたい。進路指導については，今後も進路選択に向けて計画的で生徒や保護者の気持ちに寄り添った真摯な指導に努めていく。**	**学校関係者による評価：（Ｂ）** ・キャリアセミナーは楽しいと思うので続けてほしい。職場体験も将来にもつなげられると思います。 ・「志教育」は以前から発信しているので，保護者の理解も深まってきていると思う。 ・進路選択についてなど，卒業生から話を聞く機会があるとよいと思う。 ・コロナ禍にありながら，十分に取り組んでいると思う。今後は，もっと異校種間の交流を増やしていければよいと思う。 （保護者平均８１．０%）
４積極的な生徒指導と一人一人のニーズに応じた特別支援教育・防災教育の充実 ① 一人一人の生徒と向き合い，心に寄り添うことで，確かな信頼関係に基づいた生徒指導体制を構築する。 ②基本的生活習慣(挨拶・返事・言葉遣い等)の確立や，社会や集団生活のきまり(時間・交通ルール等)の遵守を実行するための指導を丁寧に行うことで，心身ともに健康で，何事にも意欲的に取り組む生徒を育成するとともに，自己管理能力の基礎を身に着けさせる。 ③特別支援教育コーディネーターを中心とした校内体制をもとに，特別支援学級及び普通学級における配慮を要する生徒への支援(通級による指導等)を充実させる。	B	①「自分の子どもは，学校が楽しいと感じている。」（保護者アンケートより） **・７３．４%**がそう感じていると回答（昨年度より**６．１%減**）。 ・１２月実施の生徒アンケートの「学校は楽しい」では，**９２．８%**の生徒が肯定的な回答をした。 **⇒生徒主体の活動の場面を意図的に増やしていくことにより，自己有用感や自己肯定感を高める学校・学級づくりを実践する。** ②「障害の有無に関係なく，ともに学ぶ学校づくりを目指して努力している。」（保護者アンケートより） **・８４．８%**が良く努力していると回答（昨年度より**３．８%減**）。 **⇒通級指導も４年目となり，個に応じた支援を心掛けている。来年度も通級指導を行い，個に対応した指導を推進し，個性の伸長を目指す。** ③「事故を未然に防ぐため，安全に関する指導や環境整備に努力している。」（保護者アンケートより） **・８９．９%**が良く努力していると回答（昨年度より**８．１%増**）。 **⇒事前のアナウンスと保護者の協力により，スムーズに引き渡し訓練を行うことができた。安心して過ごせる学校づくりのため，安全点検や総合防災訓練等の工夫・改善を通して，職員・生徒・保護者の安全意識を高めていく。**	**学校関係者による評価：（Ｂ）** ・保護者と生徒の回答の乖離が気になります。親と子の「学校が楽しい」の感じ方が違うように思います。 ・子供たちの人間関係は，それなりにうまく回っているように感じるが，心の弱さから疎外感を感じている人がいるのも事実であり，対策が難しい。検討が必要だと思う。 ・この項目も，2 年前はもう少し高かったような気がする。生徒数が少なくなったのはさみしいことだが，より目が届きやすくなることを期待している。 ・保護者の 73%もが「学校が楽しいと感じている」と回答していることがうれしい。 ・登米中の子供たちは，ずっと「障害の有無に関係なく」個性を大切にして共に学ぶを目標にしていると思う。 （保護者平均８２．７%）
５地域学校協働活動の推進と地域の歴史・伝統文化を学び・継承する体験活動の充実 ①コミュニティ・スクールとして，家庭や地域と連携・協働し，各種教育活動への積極的な参画を図るとともに，地域学校協働活動を推進することで，いつまでも地域を愛する心を育み，地域や社会での自己の役割を考え，積極的に貢献しようとする生徒の育成をめざす。 ②学校・学年・学級だより，ホームページ等を活用し，情報の発信を行うとともに，保護者・地域住民の声を反映した，地域とともにある学校づくりに努める。 ③総合的な学習の時間等を活用し，地域の歴史や伝統文化を学び・継承する体験活動を通して，豊かな心をはぐくみ，学習成果を発表する。	A	①「学校は，地域と協力しながら教育活動に取り組んでいる。」（保護者アンケートより） **・９４．９%**が良く取り組んでいると回答（昨年度より**４．６%増**）。 **⇒今後も地域と連携・協働した取組を HP や学校だより等を活用して，すべての保護者に伝えていくよう努める。** ②「生徒の学校での様子や情報を分かりやすく伝えている。」（保護者アンケートより） **・８７．３%**が分かりやすく伝えていると回答（昨年度より**５．２%減**）。 **⇒HP やスクールメール，各種たよりを活用して，学校の様子や予定の変更等，昨年度以上にこまめにお知らせした。評価の数値は減少してしまったが，ＨＰの閲覧数は順調に増加している。全体に浸透するように，来年度も継続していく。** ③「地域との連携を大切にした体験活動を通して，ふるさとについてよく学んでいる。」（保護者アンケートより） **・９４．９%**が良く学んでいると回答（昨年度より**０．８%減**）。 **⇒運動会や文化発表会では，表現活動として伝統文化を学ぶことができた。伝統芸能体験会等，地域の行事にも積極的に参加した。今後も地域コーディネーターと連携を図り，活動していく。**	**学校関係者による評価：（Ａ）** ・地域には協力的な方が大勢いるので，生徒も積極的に地域や社会に貢献する気持ちになるのではないか。 ・地域の人たちも中学生を大切にしている。そのようなことが，地域とのつながりをよくしているように思う。 ・地域のイベントへの生徒の参加について，柔軟に対応していただきありがたい。 ・伝統芸能等において，地域の協力を受けながら楽しんで学習できているように思う。保護者として，地域の皆さんの協力をありがたく感じている。 ・運動会や学習発表会で，地域の伝統文化を取り入れていることは良い取組であると思う。 （保護者平均９２．４%）
６教職員の資質能力の向上と主体的な学校経営への参画 ①校内研修や現職教育を通して，教職員一人一人の教科指導力と資質能力の向上を目指した研究授業を実践する。 ②校務分掌を基にした「目標達成度評価」と個々の能力・適性の伸張を図る「資質能力育成評価」を適切に活用し，個々の能力・適性を高め，年齢や経験に応じた校務分掌の役割を果たし，学校教育目標の具現化を目指す。 ③教職員による自己評価と保護者・生徒アンケートを実施し，ＰＤＣＡサイクルに基づく改善を行い，教職員一人一人の学校運営に対する参画意識を高める。	B	①教職員の教科指導力を目指した「協働的な授業づくり」を中心に据え，一人１回以上の研究授業を実践することができた。 ②今年度も職員評価を２回（中間：９月，最終：２月）実施する予定である。 **⇒来年度も，職員評価を活用して，教員一人一人のライフステージに合った資質能力の向上を目指す。更に個々の適性に応じた校務分掌を割り当てることで学校教育目標の具現化を目指す。** ③今年度も，教職員と生徒には年２回（５月と１２月）のアンケートを実施し，保護者には１回（１２月）のアンケートを実施して，学校運営における成果と課題を検証した。現在は，その検証を基に来年度の教育計画を作成中である。 **⇒来年度も各アンケートを実施して，ＰＤＣＡサイクルよる改善を行い，教職員一人一人の意識を高めることでより良い学校運営を目指す。**	**学校関係者による評価：（Ｂ）** ・この項目については，保護者では見えないところも多く評価は難しいところである。子供たちが興味を持って楽しく授業を受けられるような指導を工夫していってほしいと思う。 ・より良い学校づくりの推進のために，いつもありがとうございます。先生方の努力には頭が下がります。ＰＤＣＡサイクルは，果てしなく続いていくものと思いますが，よろしくお願いします。